

WINDOW

大きな揺れを
起こすドーン!

揺れの後には、
津波がやって
来るザブーン!

今すぐ南海地震に
備えるのじゃ!

はい!!



じしんまん



つなみまん



ヘルバちゃん



たいさくくん



トラフ博士

2013
Spring
No.58

特集 もし南海地震が起きたら～在住外国人の防災に対する意識～

- 国際ふれあい広場2012
- 南国市国際交流協会における在住外国人のための防災対策活動について
- 田内千鶴子生誕100周年記念事業
- A letter from abroad

小島 理世(JICA青年海外協力隊・ウガンダ派遣)

● INFORMATION BOARD

協会からのお知らせ

土佐弁ミュージカル2013開催のご案内



ゆうどうくん

6ヶ国語版
パンフレットも
あるよ～!!

国際 ふれあい広場 2012

10月6日の「国際協力の日」を記念し、今年度も県民の皆様へ国際協力や国際交流をより身近に感じていただくためのイベント「国際ふれあい広場2012」をJICA四国との共催で開催しました。イベントの様子を写真で紹介したいと思います。



▲(上)県フラ協会によるフラダンス披露
▼(下)特別出演:ベリーダンス

開催日：平成24年10月14日(日)

会場：ひろめ市場、大橋通商店街

出展団体(順不同)：

- ①在日本大韓民国民団高知県地方本部
- ②高知県青年海外協力隊OB会
- ③「コデアルテコ」を応援する会
- ④特定非営利活動法人Brain
- ⑤高知SGG善意通訳クラブ
- ⑥高知大学国際茶屋
- ⑦高知大学国際協力団体SKIP
- ⑧高知県フラダンス協会
- ⑨奥村多喜衛協会
- ⑩田内千鶴子生誕100周年記念事業実行委員会
- ⑪JICA四国
- ⑫高知県国際交流協会

来場者数(推計)：7,200人

▶モンゴル出身の高知大学留学生による馬頭琴の演奏



▲青年海外協力隊OBによる体験談トーク



◀国際協力・交流パネル写真展



出展団体の一つ、「高知大学国際茶屋」横川和音さんからのメッセージ

高知大学・国際茶屋は、学生という立場から国際交流・国際協力のために何かできないかと、このイベントに参加させていただきました。初めての出展は不安も多かったのですが、予想外に多くの反響があり、改めてこのような活動が必要とされていることを認識し、うれしく感じられる思いでした。

私たちが行ったのは、留学生に手伝ってもらっての外国料理の販売、洋楽やモンゴル伝統楽器「馬頭琴」の演奏、各国民族衣装のレンタルや写真撮影、といった内容で、各出展内容での人気や達成度のばらつきもあったのですが、お客さんに喜んでもらえることが何よりも喜びでした。そして、そういった経験は、団体として、学生としての成長にもつながったのだと思います。

今後、このような体験をもとに、高知大学生、留学生による国際交流・協力団体としてより積極的に動いていけたらなと感じています。



▲海外民芸品展示即売



▲国際ボランティア、NGO相談コーナー



▲海外料理の販売

南国市国際交流協会における 在住外国人のための防災対策活動について

南国市国際交流協会会長 堀池 道郎

現在、南国市には30ヶ国を超える外国籍の居住者が200人以上いるが、その多くは高知大学農学部、医学部や高知工業高等専門学校への留学関係者と永住者である。在住外国人の中には本国で地震や津波を全く経験したことの無い人もおられるので、2008年より外国人を含めての防災訓練に南国市消防署の協力のもと取り組むことになった。

しかし東日本大震災を受け、これに匹敵する東南海地震が遠くない時期に起こるという予測や地震に伴う津波の危険性に対する関心が高まる中で、外国人は災害時に状況把握やコミュニケーションの点で災害弱者となるので、訓練の内容を再検討した。

2012年度は自治総合センターの地域国際化推進助成事業に採択され、地域多文化共生活動に、数回の防災対策活動を取り入れ、まず地震や津波の怖さを熟知させ、災害時の情報伝達の重要性を徹底させることを目標の一つとした。

7月には淡路島にある北淡震災記念公園を訪ね、震災のビデオを見た後、地震で生じた断層や各種模様の見学などいろんな角度から地震について学んだ。それに先立ち、5月に『やさしい日本語でほどこ講座』を



北淡震災記念公園見学

開催し、災害時に外国人に分かりやすい状況伝達法について研修した。そして6月には南国市役所、南国市消防署の協力のもと、県、南国警察

署、県国際交流協会にもご参加いただき「災害対策研修会1」を開催した。地震発生時にそれぞれの居場所での対処や避難の仕方をグループごとに話し合い、消防署の方の助言も頂いた。続いて「災害対策研修会2」を9月に南国市消防署員の指導のもとに、地震発生に伴う津

波発生時のDIG (Disaster Imagination Game) 訓練を実施した。地図上に3枚の透明シートを置き、それぞれのシートを地図にのせて、①生活上よく行く場所にポイントシールを貼る。②道路、川、山をカラーペンで塗る。③危険予想地域のうち浸水5m以上の地域は赤、1m以上は黄色で塗るなどして、自分の住んでいるところの危険度を確認し、災害時の対応の仕方を議論した。11

月には、東日本大震災バックアップセンターの代表として、現地支援に尽力されている長岡市国際交流センターの羽賀友信センター長に東日本大震災についての話を伺った。12月には避難訓練と応急手当、炊き出し

を中心とした野外研修を実施した。高知地域留学生交流推進会議の後援、南国市消防署、同危機管理課、同食生活改善推進協議会、吾岡山文化の森環境整備推進会の協力のもとに、災害時を想定した状況での実地訓練だった。



災害対策講座

この一年に行った研修は災害対応策としては、外国人だけではなく、市民にとっても極めて有益であった。在住外国人の多くは留学生など短期間の居住者が多く、訓練の繰り返しが必要に感じたが、民間の団体としては公的な支援なしでは継続は多難に思う。

もし南海地震が起きたら

～ 在住外国人の防災に対する意識 ～

南海地震がいつ起きてもおかしくないと言われる中、高知県でも様々な震災対策が進められている。今回、県内在住の外国人6人の方に自身の防災に対する意識や外国人の視点から見た問題点を挙げてもらった。(敬称略)

自国で起きる災害とその対策は？

ンガツ コンゴ民主共和国では地震はほとんどないが、火山噴火や洪水が多く、天災による国内避難民がたくさんいる。

ジョシュア カリフォルニアでは山火事や地震が多い。大地震が起こるとされているため、ビルの補強や耐震工事などを行っている。避難訓練や火災訓練もある。私が子供のころに大地震があり、停電を経験した。

アメリカ インドネシアでは地震はあるが対策や避難訓練がないため、2004年に起きたスマトラ島沖地震では国民はどうしていいか分からなかった。地震後も避難訓練は行われていない。

キム 韓国では地震はほぼないが、洪水は起こる。

野中 パラグアイでは毎年、雹^{ひょう}が降り、台風と洪水が多いので橋を高い場所に造るなどしている。田舎では道路が舗装されておらず、大雨で赤土がぬかるみ、車も動けなくなる。治安が悪いせいで避難所がないため、家が浸水したら知人宅に避難することが多い。

ヨース ベルギーは土地が低く、昔は大洪水が起きていたが、現在は防波堤などを造り、洪水の規模は抑えられている。

東日本大震災について、どのように感じたか？自国の家族の反応は？

ンガツ CGのような津波が襲ってくる映像をテレビで見て、初めは信じられなかった。原発事故の報道後、日本から離れるようにと言われたが、家族もいるので、帰国することはなかった。

ジョシュア 地震について友人からメールを受け取ったときは、これほどの被害が出るとは思わなかったので、テレビを見て驚いた。

アメリカ 津波の様子をテレビで初めて見て、津波や地震について怖いと感じるようになった。日本人は防災意識が高いのに、なぜあれほどの被害になったのか、という疑問もあった。海外の友人からは日本から逃げるように言われた。市役所には、現地の情報やニュース

の内容が理解できず、どうしたらいいのか分からないといった問合せが多数あり、徹夜で対応した。

キム テレビを見て、映画みたいだな…と思った。姉が東京にいたが、精神的にショックを受け、地震酔いが続いていたようだった。

野中 当時はパラグアイにいたが、テレビを見て悲しくなり、日本にいる親戚のことが本当に心配になった。地震の恐怖をメディアから知った。日系人で話し合い、寄付金を送った。母は私を日本に行かせるのが不安になったし、私自身も不安になった。

ヨース 心配はされたが、帰国してほしいとは言われなかった。津波についてはスマトラ島沖地震の記憶もあったし、大きな驚きはなかったが、怖いと思った。

近い将来、南海地震が起きるであろうという想定を知っているか？

ンガツ 知っているが、地震についてテレビで放送していても仕事であれば見れないし、内容が難しい。

アメリカ 知っている。外国人でニュースの内容を理解できる人は限られており、テレビもラジオもつけなければ、知る術がない。例えば、新想定で高知市は震度7ということが分かっても、震度7とはどれくらいの大きさのものなのか実感がわからない。

キム 知っているが、みんなが震度やマグニチュードについての知識を持っているわけではない。

ヨース 知っている。しかし、外国人として各々が地震について理解しようとしなければ、地震に関する知識は得られないと思う。

南海地震に対する備えをしているか？また、最寄りの避難場所や自宅にどれくらいの高さの津波が来るか知っているか？

ンガツ 知っている。仕事場にいた場合は、山に逃げると思う。子どもがどうやって避難するかが心配。

アメリカ 知っているが、自宅が6階にあるため、自宅の方が安全ではないかと考えている。非常食の備蓄は



高知大学大学院生
ランドゥ・ロジャー・ソガツ
(コンゴ民主共和国)



高知市役所国際交流員
ジョシュア・デラン・カールソン
(アメリカ)



高知市役所国際交流員
アメリア・ペルナデテ
(インドネシア)



高知県国際交流員
キム・ヘヨン
(韓国)



高知県海外技術研修員
野中山崎 エステファニ 百合
(パラグアイ)



高知県立大学准教授
ジョエル・ヨース
(ベルギー)

ない。

キム 自宅が海拔5mのところにあるので、高知市では高いところに住んでいることが分かり、割と安心している。

野中 知っている。非常食を用意しており、災害時に身分証明書やお金を持って逃げるのが大事だという意識はある。

ヨース 大学が津波で浸水すると想定されているため、学内に地図が貼られている。学生とどこに避難するかを話し合い、防災訓練も行っている。それと同時に緊急時は自分の判断で行動することが大事だと教えている。空き教室には非常食の備蓄がある。私の自宅は3階にあるが、外に避難するとブロック塀が崩れてくる可能性や川の水に流される危険を冒すよりは、自宅にいた方が安全だと考えている。非常用に水やガスボンベ、電池も用意し、家具の固定もしている。

「震度」「津波」「高台」などの緊急時に使用する用語を外国人に知らせるためにはどうしたらいいと思うか。

ソガツ 外国人にとって、漢字はとても難しい。新想定も難しい漢字が多すぎて理解できない。協会作成の「やさしい日本語」の南海地震マニュアルを読んだが、知らなかった用語が多い。

アメリア 理解できない外国人にはネットワークを通じて知らせることができると思うが、孤立化していると情報の伝達は難しい。また言葉で伝えるより、映像で伝えた方が分かりやすいと思う。例えば、友人のインドネシア人が広島に行ったときに原爆のアニメを見たが、非常に分かりやすく、原爆の怖さが伝わったと聞いた。

キム こういった防災用語の学習を留学生のいる大学でやると思う。海が近くにあるキャンパスでは特に大事。

ヨース 住民登録などで外国人

が市町村役場に行ったときに、必ず南海地震について説明するなどして情報を流せば、みんなに周知できると思う。在住者でも、更新などの手続きが必要となるので、そのときに説明してあげるといい。

今回の座談会をとおして、南海地震について情報周知の徹底と情報の多言語化が急務であることが分かった。例えば、避難場所等の標識に、ひらがなや英語表示を加えれば外国人も認知しやすくなるだろう。また観光案内所などにも多言語の簡単な防災マニュアルを置き、県内在住外国人だけでなく外国からの観光客にも情報提供すべきとの意見や防災訓練の実施をより多くしたり、起震車で揺れを体感して危機意識を高めることが重要ではないかとの意見も出た。

行政と協力しながら、県内在住外国人の防災への理解を深める手立てをこれからも探って行かなければならないと思う。

当協会では、南海地震に備えるための6ヶ国語版(英語、中国語、韓国語、タガログ語、インドネシア語、ベトナム語)パンフレットと折りたたみ式災害用携帯カードを作成し、希望者に配布しております。また、当協会HPでも同じ内容がご覧いただけます。

(<http://www.kochi-kia.or.jp/earthquake/index.htm>)



座談会の様子▶

田内千鶴子 生誕100周年記念事業

田内千鶴子生誕100周年記念事業実行委員会事務局長 吉岡 郷継
(高知田内千鶴子愛の会会長)

田内千鶴子さん…といえば今では多くの方が「韓国で3千人の孤児を育てたあの田内さんね。」と応えてくれるようになりました。多くの方々のご協力を得て実施されました「田内千鶴子生誕100周年記念事業」の成果だと思っています。

今回は、その事業のご報告をさせていただきます。

韓国訪問団

記念事業としては、まず田内千鶴子さんの生誕日であり命日でもある10月31日を中心に、韓国ソウル市と木浦市で行われた記念事業に参加するための訪問団を派遣しました。

昨年10月29日から11月1日までの3泊4日の日程で、西森潮三記念事業実行委員会副委員長を団長に、尾崎正直高知県知事、岡崎誠也高知市長をはじめ約90名の方が参加されました。

木浦市では、10月31日を「世界孤児の日」とするよう、国連に対して請願する「World Orphans Day」制定推進大会に参加したほか、田内千鶴子さんが孤児を育てた木浦共生園での園児との交流や、千鶴子さんのお墓参りを



◀練習した「夕焼け小焼け」と「ふるさと」を披露する木浦共生園の園児たち

など、心に残る訪問となりました。



国連「World Orphans Day」制定推進大会の様子

高知での記念行事等

昨年11月に高知市で行われた記念行事には、韓国からも100名近い方に参加していただきました。

8日の三翠園での記念交流パーティは、申珏秀駐日本大韓民国特命全権大使ご夫妻、丁鍾得木浦市長らを迎えて、日韓約250名の方にご参加いただき盛大に開催されました。

翌9日には、高知市若松町に新しく完成した田内千鶴子さんの胸像の記念碑除幕式。続いて県民文化ホー



高知からの訪問団が田内千鶴子さんのお墓参りへ

ルでは、ノンフィクション作家 山崎朋子さんによる「田内千鶴子の生涯の意味するもの」と題した記念講演が、さらに夕方には在日韓国人音楽家による「サラン(愛)コンサート」が行われました。

記念事業は、このほか田内千鶴子さんの生涯を紹介した写真パネル展を県内13箇所で開催しました。また、田内千鶴子さんを次の世代を担う若い人たちに知ってもらうため、中学生向けの教材用としてのDVD「韓国孤児の母 田内千鶴子さん—3千人の孤児と共に」を制作して、県内の公立中学校全校に贈呈しました。

新聞やテレビなどを通じた一連の記念事業の紹介や、報道各社の独自の取材、報道によって、冒頭書いたように多くの県民の皆様が田内千鶴子さんを知っていただくことができました。感謝申し上げます。

最後になりましたが、この記念事業では、実行委員会の立ち上げから実施に至るまで、高知県文化・国際課、高知県国際交流協会、高知市総務課国際平和係の方々にご特別のご支援をいただき、また多くの県民の皆様のご協力のおかげで無事終了できました。この場をお借りしまして心よりお礼申し上げます。

ウガンダでの 青年海外協力隊の 活動について



平成23年度2次隊
村落開発普及員 小島 理世

私は東アフリカのウガンダで、村落開発普及員として活動を行っています。配属先は首都から150km離れたムベンデ県庁の地域開発事務所です。県庁配属ですが村に住み、水の防衛隊として主に村落給水の改善を行っています。その他、野菜栽培による栄養改善啓発や衛生啓発もを行っています。

村落部では、現在も井戸が使われています。私の県では、30m以上の深さがある深井戸がほとんどで、住民へ飲み水等を提供しています。しかし住民人数に対する井戸の数が少ないため、朝から夜まで水汲みをする人が絶えません。老朽化したものも多く、井戸が壊れてしまうことがよくあります。そこで水管理組合を中心に住民から修理費を集めるのですが、この集金がなかなか大変です。何度か各家を訪ねる集金に同行しました。しかしお金がない、行政が直すべきだと言って、集金を拒む人もいました。井戸が直らないと、茶色くにごったため池から水を汲むことになり、下痢などの病気が増え、ろ過の必要も出てきます。反対に手間がかかると思うのですが・・・水は無料ではないという、私たちの当たり前前の価値観はなかなか浸透しません。価値観は行動を形作ります。長い間培ってきた価値

観を変えるのは難しいこと。難しいとわかりつつ、汚い水を飲むことは腸チフスなどの病気を引き起こすため、啓発を続ける必要があります。

しかし、ウガンダもターニングポイントに差しかかっています。年間降水量が比較的多いウガンダでは、雨季の雨水も貴重な水源の一つ。村人たちは自分たちで雨どいを作り、タンクを設置し、屋根からの水を貯めて料理や洗濯に使っています。もちろん、屋根からの雨水もとてもきれいではありませんが、ため池よりは数倍きれいです。こうやって少しずつ自分たちの生活を改善しています。パイプを通し、家の中で雨水を貯めている家も発見しました。私の活動は、そういった良い取組みを発見し、他の人に伝えることでもあります。生活範囲が狭く、インターネットなどの情報に簡単にアクセスできない村落部の人にとって、“活かした使える情報”は大切なもの。日本人だからこそできる、写真などの視覚教材も取り入れた良い事例紹介も、大切な活動のひとつです。

ウガンダの人々は、援助を待っているだけではなく、自分たちから改善を進めていける力を持っています。改めて協力隊の活動は、人と人をつなぐ仕事だと感じています。



トイレの使い方講習で、人形劇を行った。
ウガンダ人の先生が活躍を



壊れている井戸。
これから住民たちの貯めた資金で井戸修理を行う



村人自ら、屋根に樋をつけ家の中に雨水を貯める工夫が凝らされている

INFORMATION BOARD

NGO団体のダイレクトリーを更新しました

高知県内に活動拠点を置く民間国際交流関係団体の連絡調整、国際ボランティアの情報や生涯学習情報の提供、教育現場での国際理解教育の促進などを目的としました「KOCHI NGO・国際NPOダイレクトリー」を2012年版に改定しました。

今回の改訂版には、県内の民間国際交流関係団体から本書に掲載を希望された40団体を収録しています。旧版と同様に、各団体の名称・代表者・事務局・所在地・設立日・設立目的・会員数・入会条件・事業内容・人材紹介・団体PRを団体ごとに1ページを使って掲載しており、事業内容に関連した写真も載せました。また、目次と索引にページをつ

け、お探しの団体を見つけやすいようにしています。本書をとおして、団体関係者の皆様により深いネットワークを築かれることはもとより、多くの県民の皆様が国際交流・協力、多文化共生活動への理解を深め、活動に参画していただくことを期待するとともに、教育機関等での国際理解学習や社会人の生涯学習などの資料として幅広く活用していただければ幸いです。在庫が限られていますが、ご希望の方はお問い合わせ下さい。



新たに購入した外国語書籍の紹介



当協会には約1700冊の外国語図書がありますが、今回新たに外国語図書を35冊購入しました。これには人気の「Twilight」シリーズや、「The Hunger Games」シリーズが含まれています。また、33冊の寄贈本も追加されていますので、読みたい本がある場合には、ぜひ

ひ当協会HPにて外国語図書リストをご覧ください。なお、当協会の外国語図書を県内どこにいても借りられるようにするため、高知県立図書館を中心に運用されている図書の物流ネットワークが利用できますので、高知市外にお住まいの方も気軽にご活用ください。詳しくは<http://www.kochi-kia.or.jp/institution/books.html>をご覧ください。

GENKI青年会 土佐弁ミュージカル2013 「TOSA WARS (トサ・ウォーズ)」

今年のテーマは「スターウォーズ」!!

いい仕事に就けるようにと、仕事命の父に厳しく勉強をさせられるルークはある日、高知で暮らす祖父母のところへ家出をする。ルークは祖父になぜか映画「スター・ウォーズ」を見せられる。眠りにつくつと、夢の中でスター・ウォーズの世界に！「イナカ」をつぶそうとする「悪の大企業」と戦う反乱同盟軍に加わり、強くなるためにルーツである「土佐」をマスターしなければならない。ルークは「イナカ」を救うことができるのか？

今年も笑い感動を土佐弁でとどけます!

ボランティアグループGENKI青年会は、高知県在住の外国人青年を中心として、平成8年から毎年「土佐弁ミュージカル」を上演し、地域の交流と高知の青少年を応援しています。入場は無料ですが、募金活動を行います。頂いた募金は、毎年、海外留学を希望する高知県の中高大学生へ助成金として活用いたしますので、ご協力をお願いします。



土佐弁ミュージカル2012「絵巻 in ネバーランド」の一場面

4月6日(土)	本山町	プラチナセンター	14:00
4月7日(日)	室戸市	保健福祉センターやすらぎ	13:00
	安芸市	市民会館	18:00
4月13日(土)	香南市	のいちふれあいセンター	13:00
	四万十市	市立文化センター	18:30
4月14日(日)	四万十町	窪川四万十会館	10:00
	高知市	県民文化ホール	18:30

※開演時間は変更される場合があります。

お問い合わせ: リサ・ヤスタケ
TEL: 088-823-9605 (高知県文化・国際課内)
Email: genkiseinenkai@gmail.com

